

テーマ **物流って？福島で働くって？**

物流 frankly speaking 学生さんが抱く トラック運送業・物流業界のイメージとは

＞赤坂：
お手元の資料。関心としては、「就職先として受けるつもりはないよ」というのが74.8%。これ全体、大学生941人を対象としたアンケートだそうですけど、この数字が出ているのと、もう一つが「物流企業を1社も答えられないよ」というお答えが47%あった。これが、1つの実態としての数字なのかなと。とはいうものの、良いイメージの1番目に「社会貢献度が高いんだ」というお答えをいただいた方々が35.4%いらっしゃったということで、今専務がおっしゃった「礎」というところですね。そんなイメージを持っていただければと思うんですけど、就職活動をしてきたお二人。例えば、この結果を見てどういう印象を受けますか？

＞宗形：
結果を見て、数字が結構極端だなという。良いイメージの上位3つは結構20%以上なんですけど、それ以外についてはパーセンテージがすごく少ない。イメージの種類にそんなにバリエーションがないのかなと感じました。自分のイメージからすると、良いイメージだと「社会貢献度が高い」というのは私も思います。やはり一つひとつのものは誰かが運んできたものだし、誰かによって渡されたものであるとは思うので、社会の一部として貢献度が高いイメージがあります。

＞梨本：
私はこの「就職先として受けるつもりはない」という、私もこの枠に入ってしまうのかなと思って。民間企業に就職しようと考えて幅広い業界を見ようと思ったときに物流業界が頭に入っていなかったというのが率直な感想です。実際にこのデータから読み取れることにも、社会に必要というのと「就職したい」の間にギャップがある。必要だと思っているけど、自分がいざ就職するって考えると、やっぱり他業界と比べたときに少し選択肢として残りづらいというのは、実際に自分も就活して思いますし、本当にこの数字はかなり正当性の高いものなのかなと感じます。





＞赤坂：
今のお二人の話を聞いてどう思いますか。例えば、企業側からの発信がこういう若い方々に届いていないんじゃないかと。

＞高橋部長：
もう全然届いていないと思いますし、届け方も私たちは下手くそですし。発信しなくてはいけないということさえも気が付いていない企業も大多数だと思います。



＞吉田社長：
やっぱり基本的に形のないサービスを売っていますので、例えば「このデジタルカメラですよ」「スマホですよ」ってならないところからやっぱり始まって。具体的な形で「答えられない」というのは、物流の幅が広すぎて、何が物流だか分からないということにつながっているのだと思います。多分、ヤマト運輸さんとか佐川急便さんというと分かると思うんですけど、逆にそれぐらいしか出てこない。船会社もそうだし、倉庫会社もそうだし、航空貨物もそうだし、輸出入をやっているフォワーダーもそうだし、そういうことがあんまり身近にない。それに対して高橋さんがおっしゃったように、あんまりPRもしてこなかった。ということで、そもそも認知度が低いところにそういう努力もしていないので、なかなか学生さんに対しては難しいのかなと。
2年前に福島大学の共生システム理工学類で社会人の方を呼んだキャリアデザインの講義をさせていただいたときも同じ話をしているんですけど、やっぱりまず「イメージが湧かない」というところから話がどうしてもスタートしちゃう。身近にないというか。

＞赤坂：
以前と最近で変わってきたところとかありますか？

＞吉田社長：
あんまり。最近皆さんに大和ハウスって認知されてきたと思うんですけど、ダイワマンとかもやっているし、やっぱり身近なところにあるメーカーさんとか、ああいう形で手っ取り早く表面に出すことができますので。あと皆さんは小売の消費者ですから、ああいうスーパーさんとか。それから銀行とか金融機関とかと比較しても、ちょっとやっぱり訴求力がないのが物流業界なのかなというのは感じますね。あんまり変わっていないと思います。あまり物流業界の会社さんって答えられないと思いますね。

＞赤坂：
野村さんは、入る前と入った後で印象、イメージって変わった部分ありますか？

＞野村：
印象が変わったというか、認識の仕方が変わりました。物流業って本当に見えないじゃないですか。見えないところで動いていて、流れていてというので、あんまり意識的に自分の生活で見てなかったんですけど、入社してからいろいろ「物流業界ってこういうところなんだな」分かってきてから、「自分たちのマークが付いてるぞ」とか。運転していて、「この会社さん見たことあるな」とか。普段の生活で実はあるんだけど、今まで私って見えてなかったんだなというのをすごく実感します。

＞赤坂：
実際入ってみて分かったことってはありますか。

＞野村：
実際ドライバーさんと関わりが普段あるとしたら、運転しているときじゃないですか。実際自分が運転していて、トラックとすれ違うとか、後ろにトラックの運転手さんがいるとか。やっぱりそういうときって「何かすごく怖いな」とか「横を見れないな」と思っていたんですけど、実際働いてみて、すごく気さくな方が多いんだなと思っていて。お昼休みに食堂で食べていたりするんですけど、すごく気さくにお話し掛けてくれたり、「これ食べるか？」って言っておやつをくれたりします。実際に関わってみないと分からない部分もたくさんあったなと思いました。

＞赤坂：
事業者の、現場のお話を聞いてみて、学生のお二人は、始めにフリップを書いていただいてお話しいただきましたけど、なにか印象が変わったところとかありますか？

＞宗形：
私は「一人仕事がメイン」だなと思って、あんまり他のドライバーの方やその運送の会社の方と関わる機会があることをあまりイメージできなかったんですけど、今その昼食を介したり、業務の中でいろいろお話しすることもあると聞いて、結構チームプレーな面もあるんだなという印象を持ちました。

＞梨本：
具体的なエピソードを聞くことで、本当にそういう「気さくな方が多い」とか、業界に対して知らないからこそある偏見は少し崩れていったような気がしました。

＞赤坂：
次は、ちょっと深掘りをしていきます。

物流 frankly speaking 仕事を選ぶときに一番大切にしたいことは何ですか？



問いは「仕事を選ぶときに一番大切にしたいことは何ですか？」。学生さんは実際の就職活動で大切にしていたこと。野村さんの場合は、就職活動で大切にしてきたことや、働き始めてから大切だと感じたことなどを。吉田社長と高橋部長は、若い人に会社を選んでもらうために、企業として提供できる価値として大切に思っていることを書いていただければと思ってます。



＞赤坂：
それでは一斉に上げてもらってよろしいでしょうか。まず学生さんから。宗形さん。「働き方のスタイル」っていろいろあると思うんですけど、どういうことですか？

＞宗形：
私はもともと音楽をやっていて、その音楽を作る上でも演奏会の運営でも、誰かと一緒に切磋琢磨した経験が大きくて。そういうのを働き方においても、誰かと一緒に何かを作り上げる仕事がしたいというのがまず1番の価値観としてあったので、「働き方のスタイル」と書きました。

＞赤坂：
具体的に言ったら？お給料とか、休みだとか、人間関係、仕事内容、成長機会、福利厚生。その中であえて言うとどうですか。

＞宗形：
人間関係ですかね。入社前に人間関係について知るのは難しいと思うんですけど、周りの人たちと支え合える環境なら、私はきつい仕事でもやれちゃう人なんですよね。「頑張ってっこー」みたいな雰囲気があれば、基本仕事をやりきっちゃうので、誰かが常に隣にいる環境は自分にとって向いているかなと思いました。

＞赤坂：
梨本さんはどうですか？



＞梨本：
自分は「成長環境」です。実際に就活しているときもずっとこの軸を一番に進めていて、今転職が結構主流になってきている中で、ファーストキャリアでどれだけ量と質とを両方取れるようなところを選べるか……若いうちにしか頑張れないと思いますし、若いうちに頑張ればそこで身につけた基準でその後の仕事ができる。これを一番重視していました。

＞赤坂：
同じ質問なんですけど、例えばもっと細かく言うと？

＞梨本：
仕事の内容です。自分の選んだ仕事も、働く

ふくしま共創チーム × 

中で知識が付いたり経験値とかを他でも活かせるという、将来性も見据えた成長環境があると思ったので、内容はすごく大切だと思います。

＞赤坂：
企業側として、高橋部長お願いします。



＞高橋部長：
私は「ワークライフシナジー」ですね。その相乗効果を狙っていって、働きながら自己成長もできるというのが理想だなと思っています。自分自身も、一緒に働いている子たちもそうですが、一緒に成長をし続けていきたいなと思っています。

＞赤坂：
吉田社長はどうですか。

＞吉田社長：
私は「バランス」。これはワークライフバランスになりますけど、やっぱり地元で働くということ。我々の物流の中小企業で働いていただく場合ですけど、仕事は忙しいけどそれなりの成果が出ればお給料が当然高くなりますし、そういう賃金の支払い方をしています。社会的な基盤として我々はプラットフォームであるという自負心もあります。あとは、この会社を基盤にして家族の生活を高めたり、自分の趣味の世界に行ったり。その基盤をしっかり提供するということが、我々としての価値なのかなと思っています。



＞田母神専務：
「責任と信頼と達成感」というふうに書きました。企業に勤めていたとき何を考えていたかというと、その企業がどんなことをやっているか、自分も就職する前に調べて、一員になってみたい。なった以上は責任を持って、信頼の置ける仕事をしたいという考え方で。我々はサービス、ものを運ぶという形に残らないものですから、達成感を得られないと、やっている意味が分からなくなってしまう。自分がやったこの仕事によってこういう人たちが助かっているはずだ、世の中のためになっているはずだという社会貢献度の「達成感」を私は非常に大事にしてきたし、それが得られる会社に就職したいというふうに思っていたのが最初の動機でした。

＞野村：
私は就職活動は「譲れない条件の優先順位」を決めることが大切なのかなと思ってます。一人ひとりが大切にしたいものって違っていて、お給料が高いところがいいという方もいれば、休みがちゃんと充実したところがいいという方もいると思います。なので、自分なりの「ここは譲れないぞ」というのを、全部は無理だから3個ぐらい挙げて、その条件を満たす仕事の中から仕事内容を見て決めるのが一番いいのかなと思いました。「ライフスタイルに合った働き方」が今の時代すごく大切だと思っていて、仕事の中に生活があるという方もいるとは思うんですけど、私個人としては生活の中に仕事があって、生活が充実しているからこそ、仕事も「よし、頑張るぞ」っていうふうに思える。仕事を頑張って頑張って、家に帰って寝るだけってなっちゃうと「何でこんなことしてるんだろう」ってふと思うときが来ちゃうので。私としては、ライフスタイルに合った働き方は、とても大切になってくるのかなと思いました。

＞赤坂：
仕事観が変わったきっかけは何か？



＞野村：特にはないんですが、転職で今の伊達貨物運送に入社しました。プライベートでスポ少をしていて、子供たちのために時間を作ってあげられないのがもどかしくて、それがきっかけです。仕事メインで選んだ結果、時間が作れなかったので、通勤距離などを考慮して、自分の生活にあったところを選ぶ必要があるのかなと感じました。

＞赤坂：
意外に学生さんから出てきたことのほうがどちらかというと体育会系で事業者さんのほうが柔らかに感じてる。

＞田母神専務：
柔らかくしなきゃいけない時代になってきちゃったんです。ちょっとした口調の強い主張はパワハラだとか、言われちゃう。だから、指導者側がものすごく考えなきゃいけない時代。それは人間性を尊重すれば当たり前のことなんですが、一方で個々の耐性がものすごく弱まってると思うんです。戦後日本が復興してくる中で、なんとか頑張って、楽な生活、豊かな生活を送ろうとやってきたんです。ある程度豊かになっちゃったもんだから、頑張る理由がないんですよ。そうすると、ライフスタイルとか自分のプライベートを大事にするっていう方向に今変わってきてる。それは非常に大事なんです。ただ、企業として「できあがった人」の指導じゃなくて、「できあがってない人」の指導をどうするかというのは、ものすごく悩むんです。

＞赤坂：
ありがとうございます。学生さんお二人に聞きたいんですけど、物流業界、印象がちょっと変わったとは思うんです。例えば、就職にあたって物流業界を知らなかった、選択しなかったというのもある中で、今、実際に決められた会社・仕事でやろうと思ったことって例えば物流業界ではできないことですか？

＞宗形：
私は先ほど言ったようにチームプレーというか、人に囲まれて仕事がしたいなというのがあったので。最初の印象だと物流業界って一人仕事がメインだというイメージがあったので、「ちょっと自分の望む働き方のスタイルとは違ったのかなという印象はありました。

＞梨本：
もちろん成長はあると思うんですけど。汎用性というか、その後のキャリアを考えて、もし結婚等でライフステージ変わったときに、東京に出てから福島に戻りたいってなったときに、果たしてトラック業界、物流業界のキャリアが、転職のときに活きるのか。幅が狭くなってしまうんじゃないかなというのを正直思っていて。物流をファーストキャリアに選んだら、セカンドキャリアも物流になる、みたいな。漠然としたイメージがあったので、セカンドキャリアも幅広く仕事を選びたいという私の希望を叶えることを考えると物流は、少し難しいところもあるのかなと思ってしまいました。

物流 frankly speaking

物流業界の広報担当になったら、若い世代に向けてどんな情報発信をする？

＞赤坂：
物流業界の広報担当になったら、若い世代に向けてどんな情報発信をしますか？



＞宗形：
私は1つ目が「MBTI × 適職診断」です。MBTI診断ってご存じですか？

＞赤坂：
いや、存じ上げないです（笑）。

＞宗形：
性格を16タイプに分ける診断です。コツコツした決まった作業が得意とか、外に出て活動的に動くのが向いているといったことがわかるんです。トラック業界、物流業界って分野が広いから、どれにでも当てはまるのではないかと思っていて。MBTIでコツコツした作業が好きな人は配送計画や倉庫管理、アクティブに動き回りたい人はドライバーや、社外の方とのやり取りに向いているよ、というふうに、物流業界の仕事を自分の中に自然に落とし込めるものとして、適職診断と掛け合わせるのは広報として効果があるのかなと思いました。2つ目が、「物が運ばれるまでの流れをVlog形式で紹介」です。先ほど高橋さんともお話ししたんですが、私が物流業界と聞いて一番最初に浮かんだのはドライバーの仕事でした。でもドライバーは最終的に物を届ける、本当に最後の段階。それまでに配送計画があって、倉庫から物を渡されて、という段階がある。その「認知度が低い部分」を動画やVlogで紹介することで、業界全体の仕事の認知度をもっと上げることができるのではないかと思い提案します。

＞赤坂：
ありがとうございます。梨本さんは？

＞梨本：
自分は3つあって、1点目が「キャリアモデルの紹介」です。どんな人が働いていて、どういう価値観や軸を大切にして入社したのか。どのくらいの勤続年数でどんなことをしていて、今後どういうキャリアを考えているのか。働いている方の解像度を上げるというのは、自分が就活をしていても、やっている企業とやっていない企業では踏み出しやすさが全然違うと感じたので、大切だと思います。2つ目が「世代別の座談会」。子育て中の方が「子育て中はこういう働き方ができるよ」と話したり、去年入った新卒の方が「入社後はこんな感じだよ」と話したり。簡易的にできて、なおかつ入社後の自分を想像しやすくなるいい活動だと思います。3つ目は「インターン」です。会社の中身を主体的に知る。そこまでいけば、物流業界についてもより深く知れますしいい策ではないかと思いました。



＞赤坂：
ありがとうございます。
高橋部長、今の提案をどうですか。

＞高橋部長：
実際、インターンシップはうちも受け入れているんですけど、なかなか知ってもらえない。やっていても興味を持ってもらえないというのが課題だと痛感しています。キャリアモデルの紹介もやっていたりするので、結局、やってはいても世間的には認知度が上がっていないという話なんですけど（笑）、今日教えていただいたことを積極的に取り入れて、「中身」を知ってもらえるように発信していきたいです。

＞赤坂：
吉田社長はいかがですか。

＞吉田社長：
お二人の提案、やれば全然違うだろうなと思います。我々も中途半端にしかできていなかったなと感じました。正直、ここまでちゃんと学生さんが考えて就職活動をしていることに驚きました。適職診断の件も、うちでも中途の採用時に性格診断をやっていますが、「やりたい仕事」と「自分の性格に合っている仕事」が一致するのかは個人的には疑問で、それだけで決めるのは難しい気もします。でも長い目で見れば、参考になることが多いと思います。本当に、いろんな手を使ってアピールしていかなくちゃいけないなと思いました。

＞赤坂：
適職診断とMBTIを掛け合わせて絞り込むという方法もありますし。梨本さんがおっしゃったのは、キャリアプランとキャリアチェンジを可視化する仕組みを作られたらどうですか、という。そういう視点って、今までどうでしたか。

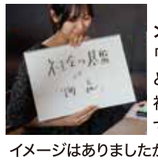
＞吉田社長：
新卒の活動をする時には外せないですね。ただし、働く時のイメージで「5年後のキャリアデザイン」ができる学生さんって少ない。イメージわかないですよ。2年後・3年後くらいまでしか。3年後に、もしかしたら考えも変わっているかもしれないし、10年後を思い描ける人は稀です。イチローみたいに小学校5年生で「僕は大リーグプレーヤーになって1億円の契約金をもらう」っていう人、あとは医者になるとか、そういう人もいますけど、そこまで描き切るってなかなかできないですよね。皆さんはどうなんですか。30代の時に何をやってるかなんとなくイメージはある？あまりないですよね（笑）。5年後くらいなら見えるかなって感じですよね。難しい。就職して5年くらいで辞めて次のキャリアを考えることになるんですかね。別な業界行こうかなみたいな。

＞梨本：
30代で何やりたいってことは、自分の中ではあくまでも行動の指標で、それを叶えるか叶えないかは別だと思っています。確かにキャリアを想像するのはちょっと難しいことだと思います。

物流 frankly speaking

今日の話を通して、これから大切にしたいことは？

＞赤坂：
最後に今日の話を通して、これから大切にしたいと思うことをお聞きします。



＞宗形：
「社会の基盤が物流」と書きました。もともと社会インフラに貢献しているのが物流というイメージはありましたが、思っているよりも社会に根付いているものであるとわかりました。一方で、物流のコストが考慮されない現状もあると聞きました。自分がこれから社会人として働く中で、物流を考慮しながらキャリアを積んでいきたいと思いました。



＞梨本：
「生活の一部としてとらえる」ということで、今回お話聞いて、幅広すぎて当たり前だと思っていた物流が、当たり前じゃなくてそれを支える人がいるというふうにとらえなおすということが大切だと思いました。

＞高橋部長：
「育成」なんですけど、企業側の立場として、社員の成長なくして企業の成長はないということで、部下にも一生懸命成長してもらって、わたしも成長させてもらって、会社も成長していければwinwinかなと思っています。



＞吉田社長
悩みましたけども「情報収集」としました。社会の喧騒に近づかないように静かに過ごしてきたんですけど、獲りに行かなきゃいけないと思いました。



＞野村：
「初心をわすれない」です。ついこの間まで転職活動をしていたのでまだ鮮明ですが、これからは企業としての視点に徐々になっていくと思うので、転職活動をする人や学生の目線を大切にしていきたいと思いました。



＞田母神専務：
「コミュニケーションと対話」です。生活の基本だと思うので、対話を大切にしていこうということと、社会に対する発信。電気・ガス・水道というインフラの次の社会基盤が物流ですので、実際なくなったら大変だというこ

ふくしま共創チーム × 



とをわかってもらうため、これからも必死に考えていきたい。我々の業界の特性として、全国に6万数千の会社があり、90%が中小なんです。発信力が弱い。だからこそ協会として、こういう業界なんですってことを発信していかなきゃいけない。自ら発信できる企業は限られているので。物流って大事だよね、関わってみたいねと思う人を1人でも多く増やしていきたい。一番の問題は親ブロックなんです。親が危険だからなどの理由で行かせない。そこで今、イメージアップ事業を行っています。皆さんが生活するうえで大切な物流というものをもっと発信していきたいと思います。

＞赤坂：
ありがとうございます。梨本さんは、将来起業したいという思いがあるんでしたっけ。

＞梨本：
そうですね、視野には入れています。人材業界に行くので、単なる派遣ではなくて、福島に対して熱い思いを持っている方はすごくたくさんいらっしゃると思うので、自分のこれまでに培った人脈や知識を活かして、何か還元できればいいなと思っていました。

＞吉田社長：
東京で起業するんですか？

＞梨本：
いや、ゆくゆくは福島に戻ってきたいですね。

＞吉田社長：
30代で全部終わるくらいの計画でやったほうがいいですよ。40過ぎるとやる気なくなっちゃうから（笑）。体力的にきついしね。30代までにすべて完成させる。30代までという……いや、本当にすごいです。起業している人、私の知っている人もみんな若いです。
40過ぎると「まあ、これでいいかな」ってなっちゃうから。

＞赤坂：
成長という意味では、やっぱり早いうちのほうがいいと。

＞吉田社長：
そうそう。

＞赤坂：
この場で学生さんお二人から、就職活動を通じた価値観や同世代の感覚を直接聞かせていただいた。それから、皆さんからも、物流業界の、業界の現状を踏まえて。これから変えていかなくちゃいけないよね、というような気づきもあったということでしたのでこういう形で、お互いの話を聞けば、初めてわかることってたくさんあるんだなと思いました。立場は本当に違うんですけど、こういう機会をもっと、持てればと思っております。

＞田母神専務：
あらためまして。本日は大変長時間にわたりまして、座談会にご参加いただきましてありがとうございました。学生の皆さんからは、福島で働くこと、会社選び、物流業界へのイメージなど色々なお話を、若い視点でいただきました。これから実際ね、仕事に就かれて、またそこで悩みがあったりいろいろするのかもしれませんが、それもすべて人生です。一度きりの人生ですから、楽しみながら頑張っていただければなと思います。
お話の中にもありました、SNSやインターネット、何回か同じ題材のものをクリックすると、AIが自動的に「この人はこういうことに興味持ってる」と判断してどんどんそれが増幅していくような仕組みになってますから、物流関連の情報があったら、そこをクリックしてみていただくと、さらに関連情報が流れてくる時代ですので、ぜひ、興味を持っていただいて引き続きよろしくお願いをしたいと思います。
私たちも、人口減少とこの業界の人手不足。リンクしてるようなしてないような。非常にこう大きな課題なんです。解決策を何かを提示して、解決していくって簡単な問題ではないので。地道な活動を通じながら、イメージを上げたり、業界全体が盛り上がっていけるようになればいいなというふうに思ってますので、今後ともぜひよろしくお願いいたします。
あらためまして本日、長丁場、大変ご苦労さまでした。ありがとうございました。

＞赤坂：
以上をもちまして、座談会を終了させていただきます。ありがとうございました。



トラック運送業・物流業界 魅力発信座談会参加者
日時／令和8年7月1日（水） 午後1時～午後3時30分
場所／イタリアンキッチン VANSAN 福島鎌田店